

「みんないでかんが生きる」ためにこゝろ考え、行動しよう!

1 防災マップを作ろう



地図ちずを作つくって
調しらべいてみみよう
あんなにううままいいななも
良よくわわかかるるね

2 救急法きゅうきゅうほうなどを学習がくしゅうしよう



あわてず
しっかりと手て当あてを
しままししようう

ひとは
みんなのために
みんなは
ひとりのために



3 非常持ち出し品ひんを揃そろえてみよう



炊たき出だししや
非常持ち出し品ひんを揃そろえる
練習れんしゅうを、おうちでも
やってみよう!

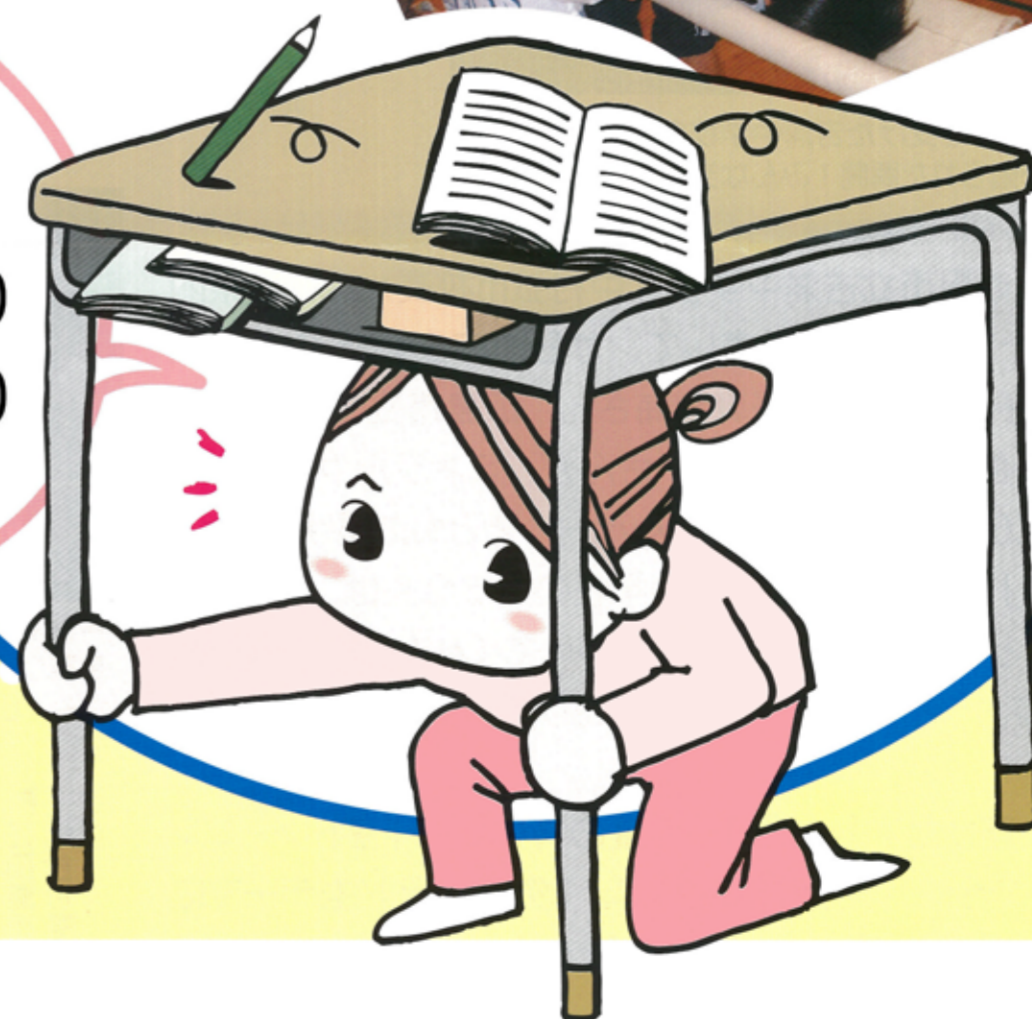


CHECK!

4 避難手順ひなんてじゆんを学習がくしゅうしよう



急に揺れたら
テーブルや、
机の下にもぐり
まずは身みを守り
ままししようう



地震じしん・竜巻たつまき・火事かじ・津波つなみ…、災害は突然やってきます。
大切たいせつないのちを守るために、日ごろからこころがけていこう。



自然災害に向き合ってきた日本赤十字社と現場の教員が提案する
“授業ですぐ使える防災教材”をこの一冊に



“いのちの大切さ”を学ぶ防災教育

- 「自然災害の正しい知識」「自ら考え、判断し、危険から身を守る方法」を災害別に学ぶことができるDVD（映像）とワークシート
- 児童・生徒が主体的に取り組めるような「気づき、考え、実行する」を重視した「コミュニケーション力」「想像力」等を養うグループワークプログラム
- 被災された子どもたちのインタビューや作文、活動したボランティアの姿から「思いやり、優しさ、いのちの大切さ」を養い、未来につなぐいのちを学ぶ

いのちをまもる

- 地震災害・津波災害
- 地震を知ろう／地震から身を守る／緊急地震速報を利用して身を守る
 - 津波を知ろう／津波から身を守る
- 風水害（台風、豪雨、雷、竜巻）、雪害
- 台風・豪雨を知ろう／台風・豪雨から身を守る □積乱雲を知ろう
 - 雷を知ろう／雷から身を守る □局地的大雨を知ろう／局地的大雨から身を守る
 - 竜巻を知ろう／竜巻から身を守る □大雪を知ろう／大雪から身を守る
- 火山災害
- 火山を知ろう／火山から身を守る

いのちをつなぐ

- 災害時の心理 ※中学生用・高校生用に収録
- 災害時のストレス反応
 - 正常性バイアス／同調性バイアス □災害時のストレス反応

いのちをつなぐ

- 災害の経験から未来へ
- 日本語字幕、副音声も収録
- チャプターで選択し、災害別に学べる

学べる自然災害

- ・地震災害・津波災害
- ・風水害（台風、豪雨、雷、竜巻）
- ・雪害
- ・火山災害

グループワーク等の教材をC・D・Rに収録

- ・コミュニケーション等を養う「防災コミュニケーションワークショップ(BCW)」
- ・実際にあった災害事例に基づいて考える力、想像力を養う「自分だったらどうする」



コミュニケーションの大切さを学ぶ
（被災児童・青少年赤十字メンバー）

特典映像

- ・広瀬弘忠（東京女子大学名誉教授）が、教員のための「エキスパートエラー」を解説
- ・藤森和実（武蔵野大学教授）が、児童・生徒が取り組める「ここらと体がリラックスする呼吸法」を紹介
- ・これからの防災を学ぶためのメッセージ

監修

渡辺正樹
（東京学芸大学教授）
気象庁

協力

文部科学省
多摩区立青少年局
学校健康教育部課 ほか

資料映像

- ・津波災害の映像（神戸市東灘区）
- ・津波のシミュレーションCG映像（気象庁）
- ・土石流の映像（長野県木曽郡木曽町）
- ・火山噴火の映像（御前山）

小学生用（1・3年）・（4・6年）にはアニメキャラクターで内容を紹介



他にも小学生用（4～6年）／中学生用・高校生用には解説、池上彰（ジャーナリスト）、ナビゲーターとして伊藤歩（女優）が出演



池上彰（ジャーナリスト）
伊藤歩（女優）



〒105-8521 東京都港区芝大門1丁目1番3号 TEL 03-3437-7082(ダイヤルイン) FAX03-3432-5507

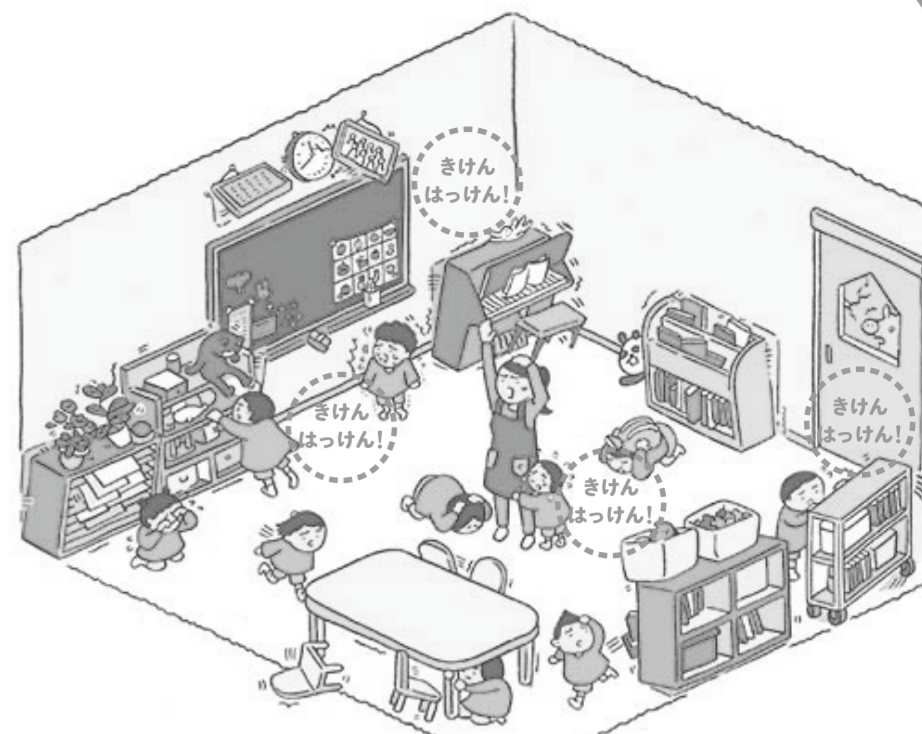


plus arts
NPO法人プラス・アーツ

幼稚園・保育所向け防災教材のご案内

ぼうさいまちがいがし きけんはっけん!

「ぼうさいまちがいがし きけんはっけん!」は、幼稚園・保育所の子どもたちに、災害時の危険（場所・行動）について伝え、自分の身を守るための基礎的な知識や判断力を身に付けてもらうことを目指した教材です。



特徴 1

楽しみながら防災を学べる

特徴 2

災害時の行動による結果まで分かる

特徴 3

テーマ別なので学びたい部分だけ実施可能

構成内容



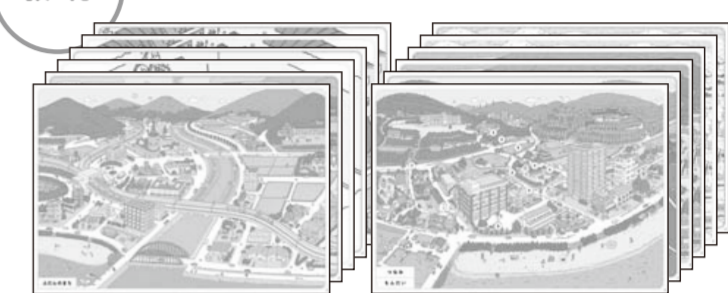
解説書



教材

A1サイズのシート17枚

各シートの両面に6つのテーマの問題と答えが印刷されています。



※各テーマにつき問題4枚、答え1枚で構成されているので、色々な使い方ができます（導入は1枚ずつ）。

実施のようす



グループに分かれて話し合う



クラス全員で意見を出し合う

様々な実施方法に対応できます!

ご購入

プラス・アーツWEBサイト <http://www.plus-arts.net/shop>

ダウンロード(A3版)

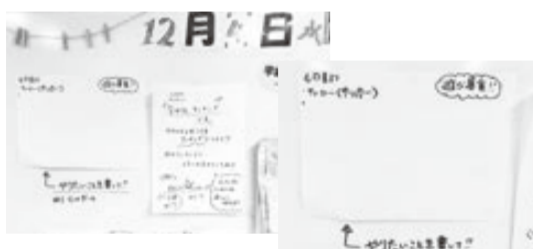
日本赤十字社WEBサイト <http://www.jrc.or.jp/activity/youth/prevention/>

事例 1

学級生活 × 掲示板

「掲示板」を教員・児童の「つながりツール」に

大阪府堺市立金岡小学校 教諭 福井 盛巴氏



「学級情報掲示板つなぐね! 5くみへず〜」

堺市立金岡小学校では、学級生活に関する情報を児童に伝える手段として、JRC活動の中で実践されている「掲示板」を活用した情報交換を取り入れています。これまで子どもたちは、概して「自分で気づき、考え、実行する」前もって準備することが苦手で、直前になり焦って行動する姿も散見されました。そこで、こうした点を改善できるよう、2学期初めからホワイトボードを「掲示板」として活用した情報交換を学級の子どもたちに紹介しました。

始めたばかりの頃は、掲示板を見る習慣ができていないので伝達事項を見逃すことも多かったのですが、徐々に定着していききました。

掲示板で情報収集を行い前もって準備することで、すべての活動にゆとりをもつことができるようになりました。それにより、自分たちがやりたいことに取り組む時間を増やすなど時間の有効活用ができ、また、「掲示板に書いてもいい?」といったように、積極的に掲示板を自ら活用する児童も増えました。現在は、教員・児童間だけでなく、児童同士のつながりのツールとしても活躍しています。

事例 2

ホームルーム × 先見

落ち着いた気持ちで1日をスタート

福島県いわき市立菊田小学校 前校長 松本 光司氏

いわき市立菊田小学校では、体育の研究指定を受けた2015年度から、学校生活のなかで青少年赤十字活動で行う「先見」という手法を取り入れています。

ある時期から、自分の気持ちを上手にコントロールできない子どもたちが友達とトラブルを起こす傾向がだんだんとみられるようになりました。そこで、一日のスタートを落ち着いた気持ちで始め、今日の一日を思い浮かべ自分なりの構想が持てるようになるため、呼吸と姿勢を整えて集中する時間を毎朝5分だけ設けるようにしました。

全校で取り組んだため生活のリズムを整えるまでが大変でしたが、「先見」が子どもたちの生活の中に浸透していくと、落ち着いて1時間目の授業にのぞむことができるようになりました。気持ちの切り替えができるようになり、いわゆる「切れる」子が少なくなり、できるまでがんばる力が身につくなど、子どもたちにとって良い効果を生むことができるようになりました。



姿勢と呼吸を整えて先見をします

OK

Good

学校生活 × JRC

「気づき、考え、実行する」などの理念があります。そうした考えを基にした行動を促す手法・ツールなども多く用意しています。授業や学校運営のなかで青少年赤十字を活用した事例を紹介いたします。

JRCには、人道教育や防災教育といった「コンテンツ」や「役割」として「JRCの考え方や手法を学校生活に役立てよう」

事例 3

総合的な学習の時間 × 防災教育

台風被害の経験を将来に生かす授業

千葉県大網白里市内小学校
学習サポーター 石川 安子氏



「まもるいのち ひろめるぼうさい」を使った授業に取り組む児童たち

2019年10月の台風19号は全国に大きな被害をもたらしました。今回の被害を受けて、本校では3年生41名を対象に、「総合的な学習」の時間を活用して「台風から自分の身を守る」というテーマで防災教育を行いました。この授業は、災害に対して自分たちに何が出来るかを考えるための良い機会となると捉えて行ったものです。実施方法としては、チームティーチング(TT)の形式をとり、1単位(45分間)としました。

補助教材として「まもるいのち ひろめるぼうさい※1」を使用しました。教材を使ってみて感じたことは、付属の指導案が児童の実態に合わせて変更できるなど、教育現場での使い方に考慮された教材だという点です。

授業導入時にDVDを活用しました。分かりやすい映像であること共に身近な出来事がテーマとなっていることもあり、その後の学習でも子どもたちが関心をもって参加していた様子がとても印象的でした。

また、この授業を通して、周囲の先生方からも「ぜひ取り組んでみたい」という声や「『相手を理解する』『相手を思いやる』『相手が何を望んでいるか想像する』など、指導者の働きかけで他の教科と共通して指導できそうだ」といった意見を聞くことができました。

事例 4

総合的な学習の時間 × 人道

「人道的な行動」について学ぶ

大阪府堺市立尾崎小学校 講師 永田 恵氏



「勇敢な店主」を題材に授業に取り組む児童たち

本校では、5年生を対象に、総合学習の時間で日本赤十字社の教材『人道的価値観をなくくむ 国際人道法学習プログラム 誰もが人間らしく生きるために※2』を活用した授業を行いました。

今回の授業のねらいは、命の尊厳や個人の尊厳を大切に国際人道法の方(人道的価値観)を広く知らせることです。「勇敢な店主」の絵から、人道的な行動について考えたり、「ハチドリの子〜いま、わたしにできること〜」の教材を読んでハチドリの行動について話し合ったり、赤十字をつかったアンリー・デュナンのリフレットを読んでこれまでの2つの話の共通点を考えたりしました。

子どもたちからは、「勇敢な店主の話で少年を店に入れることはとても勇気のあることだと思う。見習いたい」「人道的な行動とはどんな行動なのかわかった」「少しでも自分ができることをすることが大切」といった感想を聞くことができました。また、友だちの考えに対して「ほくもそう思う」「なるほど」といった共感の声や、「Aさんの考えがよいと思いました」といった友だちを認める姿が多くみられました。今回の授業で「人道的な行動」について、子どもたちなりに理解できたように感じています。

私は、子どもたちにだけでなく、校内研修や市の特別活動部会などで教職員にもJRCの考え方や手法、「人道」とは何かなどを伝えています。指導者講習会などで学んだことを、多くの先生方に伝えることでJRC活動が広がるのだと思って取り組みをしています。

COLUMN

「防災道徳」授業の開発と普及

静岡大学 准教授・学長補佐 藤井 基貴氏

私たちの研究室では、学生たちとともに道徳教育と防災教育を融合した「防災道徳」と呼ばれる授業の開発を進めています。「防災道徳」とは、災害時や復興時などにおける具体的な心理的葛藤場面を教材とし、さまざまな条件下のなかで取り得る選択肢について児童生徒が考え、議論するものです。これまでに行われた実践のなかには「避難所へペットを連れて行くのは許されるか」「津波で被災した江戸時代の宿場町の住民の立場になって、町の高台移転を決断するか」といった場面設定がありました。教師は、必要な基礎知識や起こりうるリスクについて授業内で情報共有しながら、話し合いの進行役を担います。授業の狙いは、児童生徒の思考力や判断力の向上を図るとともに、日常における備えや合意形成の重要性について気づかせ、防災を自分事として行動に移してもらうことにあります。これまでに導入いただいた教育機関は全国130以上にのぼり、学校では防災訓練の事前学習として取り組まれてきました。

こうした実践を推進・普及するにあたっては、各地の災害の歴史や最新の科学的知見に関する情報収集と分析が欠かせません。毎年、学生たちは被災地や防災センターなどに出向き、住民や専門家へのインタビューを重ねています。また、日本赤十字社の防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した実践も行われてきました。この教材には、すぐに活用できるワークシートや指導案などに加えて貴重な映像資料もDVDで収録されています。授業のなかで具体的な状況を想定してもらった際にも役立っています。

学校における防災教育をさらに推進するにあたっては、既存の教育課程を横断するカリキュラムの開発が求められます。地域でフィールドワークを行ったり、外部講師を招聘することも有効な手立てとなるでしょう。私たちは多彩な専門的知見を有する日本赤十字社との連携を通して、これからも防災を通じた「社会に開かれた教育課程」の実現を推進していきたいと考えています。

※2: 「人道的価値観をなくくむ 国際人道法学習プログラム 誰もが人間らしく生きるために」はこちらからダウンロード可能です。
<http://www.jrc.or.jp/activity/youth/pdf/seisyonen1300404-08.pdf>



※1: 防災教育教材はこちらからダウンロード可能です。
<http://www.jrc.or.jp/activity/youth/prevention/>

